日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話｜（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

92.3.6 No3551

92春闘で情勢変わった

42000円獲得へ

100円攻防に終らせるな

動労総連合
九二春闘要求骨子

①、要求額　　４２，０００円
　アンケート平均４２，２２０円
②、５５歳以上の基本給の引き上げ
③、時短要求
　※動力車乗務員の労働時間を
　　６時間３０分とすること
　※年間休日を１０８日とすること
④、第二基本給の廃止
⑤、割引証（購入券）の枚数拡大
⑥、割り増し賃金について
　　１５０／１００とすること

九二春闘はいよいよ決戦段階に突入している。

われわれは、景気の不透明感を理由とする経営側の策謀を許さず、大幅賃上げと、定年まで安心して働ける労働条件の獲得のために奮闘しなければならない。

動労総連合が二月に行った全組合員対象とした、アンケート結果に基づく九二春闘要求（別掲）について、三月五日第一回賃金交渉が東日本本社において行われる予定である。（詳細については今後掲載予定）

要求の骨子は別掲の通りであるが、調査結果によると、昨年同期に比べ生活苦を訴えている組合員は依然として九七、五％に達し、「税金」「共済掛金」等の負担増により毎月の賃金だけでは生活が困難なため、「期末手当からの補填」「妻の収入」等で生活のやりくりをしている実態が報告されている。

また、ＪＲ東日本・貨物社員にとって、年金の支払われるまでの期間、五五歳以降の労働条件がどうなるのか大きな不安材料となっている。

さらに貨物会社では、旅客会社との格差がつけられるなど、剥奪された条件はあまりにも大きい。

われわれは、本当の意味の時短、定年まで働ける労働条件、大幅賃上げ獲得のためにストライキも辞さず闘わなければならない。

社会情勢は時短に向かっているかのように流れているが、一方で労働強化による過労死が問題となり、もう一方では休日増でアルバイトを考えている人がいるなど、搾取による生活苦が進行している。

労働者階級全体の生活と権利の奪還のためにも九二春闘で情勢を転換させよう！

5.31 熱気と感動 中之島公会堂を埋め 部落解放同盟 全国連合会結成

全国に散在するわが部落民よ団結せよ。

全国水平社が発したこの戦闘宣言をわれわれは七〇年のときを経ていまふたたび高かに発する。

「人の世に熱あれ人間に光りあれ」この全国水平社の発した魂の叫びは差別への激しい人間的怒りの炎のなかに搾取と収奪、差別と迫害に苦しむきょうだいたちの胸に、そして新らしき世を希求する労働者階級とのきずなのなかに復権されなくてはならない。

われわれは、ここに全国六千部落、三百万部落民の解放を実現し労働者階級とともに人間が人間として生きることのできる真の共同社会建設をめざした部落の新たな大衆的全国組織の創立を宣言する。

この創立宣言が読みあげられるや否や大阪中之島公会堂の大ホールは万雷の拍手と大歓声のルツボと化した。

一九九二年三月一日、この日は部落解放同盟全国連合会結成の日として歴史に記されるであろう

「全国煙」と共に、すすもう

この記念すべき大会に動労千葉から十名が千葉交流センターの仲間と共に参加、感動と熱気を分かちあいその中からわれわれ「一般民」労働者が、激化する差別事件と生活破壊の現実に直面している三〇〇万部落大衆と本当に連帯できる質を獲得し共に闘っていくことを固く誓った。

全国連合会は、自らの課題を次のように述べている。

「戦争と差別の反動の嵐のなかで部落大衆が希望をたくすことのできるただひとつの砦としてそびえたつ差別徹底糾弾、大衆的要求闘争、労働者階級との共同闘争の三大闘争を貫徹しこのなかから部落民が人間としてみずからをうちたて労働者階級と手をとりあって差別社会を根底からくつがえすあらあらしいたたかいの時代の幕をあけようではありませんか」と

部落解放運動は我々みずからの課題であることを新たためてハッキリさせよう。差別問題を自分のきょうだい、身内にかけられた問題としてとらえ、これとのたたかいは、自分自身のたたかいであることを何度でも確認し差別・分断をのりこえた階級的団結の創造のために全力を尽くすことを決意してきたところである。

「部落の解放なくして労働者の解放なし」

全国連合会と共に進もう